

白色光コロナ班

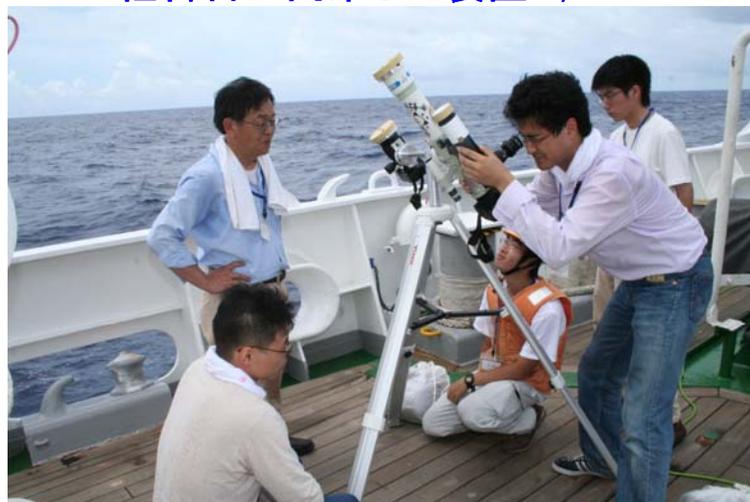
北井礼三郎、仲谷善一、大辻賢一(京都大学・理)、
郡繁喜(鹿児島大学・水産)、屋敷尚紀(鶴丸高校)、花岡庸一郎(国立天文台)
問い合わせ先: kitai@kwasan.kyoto-u.ac.jp

・我々の観測の科学的な目的は、**コロナ密度分布の微細な構造**を探ることと、インド、中国、日本、太平洋の広範囲でなされる白色光コロナの撮像を繋ぎ合わせて**構造の振動などの時間変動**を捉えることでした。使用した観測装置は

- 1 Nikon デジタル一眼レフカメラ D50+望遠鏡:35mm判換算焦点距離:1120mm
 - 2 Panasonic デジタルカメラ Lumix G1+望遠鏡:35mm判換算焦点距離:1000mm
 - 3 Canon デジタル一眼レフカメラ EOS 50D+望遠鏡:35mm判換算焦点距離:595mm
- 装置1,2はフリーストップ経緯台に同架しました。この経緯台に同架したガイド装置による眼視太陽追尾により、船の揺れによる視点移動を補償しようと計画しました。

・観測時は、**GPS信号**による正確な時刻・経度・緯度をもとに、PC制御であらかじめプログラムされたタイミングで露光時間変更、繰り返し撮像を行うような**自動観測**を行いました。これには「Eclipse Orchestrator」ソフトを利用しました。

経緯台に同架した装置1, 2



赤道儀上の装置3



・船上観測での視野の揺れを眼視で逐一追尾することは困難でした。大まかに視野を補正しつつ、自動観測で多数枚撮影する方針としました。

・次回は、ジンバルなどの揺れ補償装置を利用するのが得策と思われます。

日食の進行の様子

